

城北病院新病院建設第一期工事が終了しました

新手術室、新厨房が稼働しました。



〈新オペ室〉
血管造影室を同じエリアに取り込んで人員や動線を効率化し、全3室でオープン。急増する腹腔鏡手術に対応すべく最新の4Kカメラを導入。



〈新厨房〉
厨房機器はオール電化。厨房内には温度管理システムを導入し、食の安全と作業の効率化を実現。



ホスピタルアートについて

『ホスピタルアート』とは、アートの力をもって、病院などの医療環境をより快適な癒しの空間とする試みです。今回は、金沢美術工芸大学教員が運営に参加しているNPO 金沢アートグミさんにコーディネーターを務めていただきながら、若手職員及び友の会の方々の意見も取り入れ、外壁や内装について決定しています。外壁は金沢の街並みにも溶け込むよう、シックで落ち着いた色合いを選びました。内装は加賀五彩をテーマカラーに

各病棟にそれぞれ割り振り、スタッフステーションや病室を色付けする予定です。

また、小児病室はスタッフが子どもたちの入院生活が少しでも楽しくなるようにと工夫しています。病室には可愛い壁紙が取り付けられ、天井は空のクロスが貼られ、雲も流れています。(写真) 病室の隣には、プレイルームも備わっています。

小児科の病室は第二期工事で完成予定です。

私たちがめざすもの

医療福祉宣言

城北病院 城北診療所 2015

- 1 患者の立場に立ち、インフォームドコンセントを大切にします。
- 2 専門的な力量向上に努め、安全安心の医療・福祉の提供をすすめます。
- 3 すべての人々の健康づくりを支援し、安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
- 4 人権を守り無差別・平等の医療・福祉をめざします。

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
http://jouhoku-hosp.com
E-mail renkeisitu@jouhoku.jp



医療福祉連携相談室だより

Jo-HOKU No. 44

2017.1.25 winter



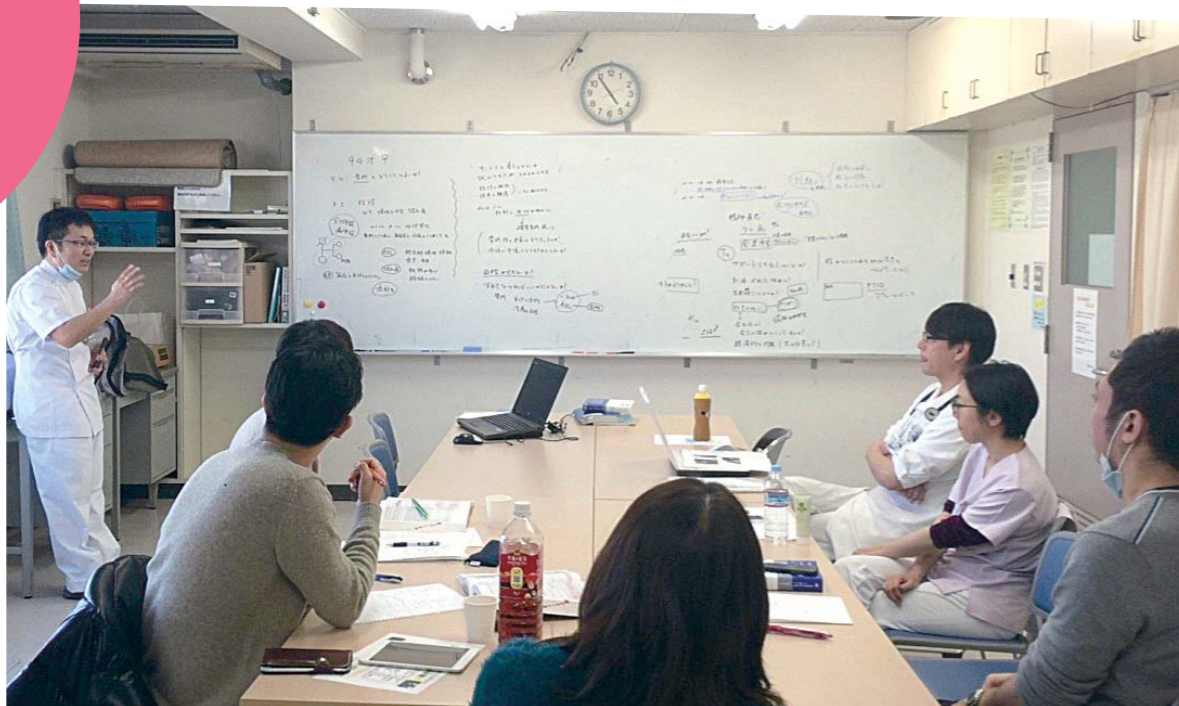
城北病院 院長 大野 健次

2017年新春 新年明けましておめでとうございます

新年明けましておめでとうございます。新幹線効果で、金沢駅から近い当院には海外から旅行にこられた方の受診が昼夜を問わずに増えてきています。国籍も様々で、中国、韓国、フィリピン、カナダ、ベルギー、スペイン、アメリカなど様々です。医師や看護師は、片手にipad やスマホのグーグル翻訳を持ちながら日夜奮闘しています。私ももう少し英語の勉強をしておけば良かったとこの年になって反省をしています。このようなグローバル化とは別に、現在は団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年問題がクローズアップされています。

2025年問題まで後〇〇年という言い方をされる場合が多く見られますが、実際2025年問題の骨格は2018年4月の医療と介護の同時改定でなされます。2018年が最も大きな転換点となる可能性があり、同時改定までに病院は態度をきめる必要に迫られます。城北病院も、この2025年問題に正面から取り組み2018年度の同時改定に向けて議論する最後の年2017年を迎えたこととなります。このような医療制度の変化の中で、地域に育てられた「住民立の病院」であることを肝に銘じて乗り越える所存です。

また城北病院の新病院建設(現地建て替え)が2016年4月から始まり、2017年の1月には厨房棟と手術室とMRI棟が完成し運用が開始されます。その後病棟本体の西棟・南棟の解体が開始されるスケジュールになっています。2025年問題とともに、多死社会についても考えていかなければなりません。職員や地域の方々の悲願でもあった、「笑って死ねる病院」のための緩和ケア病棟は遅くとも2019年秋には完成し稼働する予定です。現在の新病院建設(リニューアル工事)はまだまだ続きご迷惑をおかけいたしますが、本年もよろしくお願いいたします。



開設しました
総合診療科を

城北病院総合診療科
科長 野口卓夫

当院では、総合診療科を昨年7月に開設しました。

メンバーは〈表1〉の通り、各科からの5名で構成されています。

外来は、城北診療所にて毎日行っており、入院が必要になった場合は、城北病院で専門医が担当します。診療の特徴としては〈表2〉のように科にかかわらず、すべての問題に向き合う診療をこころがけています。

総合診療科メンバー 〈表1〉

野口卓夫 (内科)

松島 実 (内科)

牧田智絵 (内科)

中村 崇 (外科)

武石大輔 (小児科)

総合診療とは? 〈表2〉

患者のすべての問題に対して真正面から向き合い、その状況において患者にとってBESTの選択をする。患者をバラバラの臓器としてみるのではなく、心理社会的背景も含め、ひとりの人間として診る。分化しやすい専門科に対して、患者さんについて統合していくことを専らとする科である。

城北病院は自前で医師を養成してきた歴史がありますが、今後は3年目以降の後期研修として家庭医養成を総合診療科が新たに担っていくことになり、そのためのプログラムをつくりました。プログラムの一つとして、家庭医カンファレンスを毎週木曜日(15:00-17:00)に行っています。家庭医(2018年度以降は総合診療医)が力をつけるために必要なポートフォリオ支援の他、学生を交えての臨床推論の学習の場を提供しています。また当院では、2017年度より地元金沢大学医学科5年生の実習(BSL)を受け入れることになりました。「患者中心の医療」を伝えられるよう、指導医と現場スタッフが協力して準備をすすめています。

このような学生実習指導、初期研修指導、後期研

修医養成を一貫してすすめていくために、指導医の研修養成も重要です。当院では、プライマリケア連合学会指導医、各認定医を有していますが、指導医の研修の場として、『ステップアップ研修』を毎年12月に、大阪市立大学の鈴木富雄先生にきて頂き行っています。回診の実践、臨床推論を通じて総合診療のレベルアップを行っています。どなたでも参加可能ですので、是非、ご活用いただき今後の連携に活かしていただければ幸いです。

城北病院は現在、新病院を建設中です。その構想には「いつでも誰でもかかりやすい」「地域に密着し連携に強い病院」を目指すとうたっています。総合診療科としては、この医療構想を完成する要として活動していきたく思います。